

GranBacka Skolan 基礎学校の障害児学級

ストックホルムの地下鉄網は路線ごとに色分けされていた。ホテルから通勤時間帯の混んでいる（日本の基準では混んでいるとはいえないが）地下鉄を「緑」「青」と乗り継いで、ストックホルム郊外の Västra Skogen 駅に向かう。知的障害児と健常児との統合教育を実施しているという GranBacka Skolan 基礎学校を見学するためだ。



地下鉄に乗るには乗客は高速のエスカレーターで地中深く潜ることになる。冷戦時代にソ連からの攻撃に備えたシェルターの役割も担っていたからだという。ホームやエスカレーターの壁には装飾が施されて芸術的であるが、岩を掘ったところにコンクリートを吹き付けただけで、でこぼこしている。地盤が固く、地震のない国だからなのであろうが、日本のように地下水が噴き出すことはないのだろうか。

Västra Skogen 駅を出ると歴史的な建造物の多いストックホルムとはうってかわって日本でも見慣れた感じの5階建て程度の団地が立ち並ぶ住宅地。駅前の建物の1階はスーパーになっている。

地下鉄の駅から5分も歩かないところに学校があった。とは言っても日本のように学校のまわりに塀やフェンスがあるわけではないし、建物も平屋なので気づきにくい。

スウェーデンの義務教育は7歳から16歳の9年間で、義務教育には基礎学校（日本の小・中学校にあたる）、サマー人学校、特別学校、（重度の聴覚障害児のための学校）、訓練学校、特別学級があるそうだ。義務教育ではないが、就学前の1年間の就学前学校がある。また、1996年から1歳から5歳までの幼児期の教育（保育）も教育科学省の所管となった（このことで指導者の資格として大卒の資格がいることになった）。

この学校は、近くにある基礎学校の低学年（6学年まで）を対象とした分校とのこと。「家庭の知識」（日本でいえば「家庭科」というより「総合的な学習の時間」に近い位置づけの学習）で調理室などを使う場合には本校まで歩いて行くそうである。



平屋の校舎に囲まれて中庭があり、その一角が金網で区切られている。その中に障害児学級があ

った。教室から続くウッドデッキ、砂場と遊具があり、2学級ある障害児学級の専用部分である。

見学させてもらった学級は4、5、6年生の3人の子どもたち、先生1名とアシスタントが1名。一人の子どもは文字が読めるが、あとの二人は話すことはできても文字は読めないとのこと。隣の学級の子どもは重度で、散歩のとき1対1で大人がつくような重度の子どもたちだ。4人の子どもに大人が4人ついてた。



担任の先生に統合教育について話を聞いた。週3時間、体育や音楽、図工など授業を選んで通常学級の授業に参加しているとのこと。同じ学年にこだわるのではなく、子どもにあわせた低学年のクラスに参加。上級生が新生生にあそびを教える授業でも活躍する。そして生徒会に学級の代表も送っているとのこと。また、担任の先生が新生生に対して「障害理解教育」を実施しているとのことだった。

日課表のコピーをもらった。障害児学級でもスウェーデン語を母国語としない移民の子どものための授業が保障されている。

子どもたちが学習を記録したノートを見せてくれた。森に出かけたとき先生がとった写真が貼



ってあった。文字の書ける生徒は文も書くとのこと。後日、ここに日本からの訪問者たちの写真も貼られることになるのだそうだ。

担任の先生の説明を聞いても、日課表を見ても日本で通常使われている「統合教育」とはだいぶ違っている。同一の学校にはあるが、カリキュラムの統合は一部に限られているし、参加する

GS 1-6		Schema HT 2010			
Måndag	Tisdag	Onsdag	Torsdag	Freitag	
8:00 Anst	8:00 Anst	8:00 Anst	8:00 Anst	8:00 Anst	10
8:30	8:30	8:30	8:30	8:30	20
9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	30
9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	40
10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	50
10:30	10:30	10:30	10:30	10:30	60
11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	70
11:30	11:30	11:30	11:30	11:30	80
12:00	12:00	12:00	12:00	12:00	90
12:30	12:30	12:30	12:30	12:30	100
13:00	13:00	13:00	13:00	13:00	110
13:30	13:30	13:30	13:30	13:30	120
14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	130
14:30	14:30	14:30	14:30	14:30	140
15:00	15:00	15:00	15:00	15:00	150
15:30	15:30	15:30	15:30	15:30	160
16:00	16:00	16:00	16:00	16:00	170
16:30	16:30	16:30	16:30	16:30	180
17:00	17:00	17:00	17:00	17:00	190
17:30	17:30	17:30	17:30	17:30	200
18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	210
18:30	18:30	18:30	18:30	18:30	220
19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	230
19:30	19:30	19:30	19:30	19:30	240
20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	250
20:30	20:30	20:30	20:30	20:30	260
21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	270
21:30	21:30	21:30	21:30	21:30	280
22:00	22:00	22:00	22:00	22:00	290
22:30	22:30	22:30	22:30	22:30	300
23:00	23:00	23:00	23:00	23:00	310
23:30	23:30	23:30	23:30	23:30	320
24:00	24:00	24:00	24:00	24:00	330
24:30	24:30	24:30	24:30	24:30	340
25:00	25:00	25:00	25:00	25:00	350
25:30	25:30	25:30	25:30	25:30	360
26:00	26:00	26:00	26:00	26:00	370
26:30	26:30	26:30	26:30	26:30	380
27:00	27:00	27:00	27:00	27:00	390
27:30	27:30	27:30	27:30	27:30	400
28:00	28:00	28:00	28:00	28:00	410
28:30	28:30	28:30	28:30	28:30	420
29:00	29:00	29:00	29:00	29:00	430
29:30	29:30	29:30	29:30	29:30	440
30:00	30:00	30:00	30:00	30:00	450

授業も生活年齢の同じ学年にこだわることもない。交流教育や障害理解教育が日本の障害児学級と同じように行われていると感じた。

「場の統合」という意味での「統合教育」なのだろう。いずれにしても何の手立てもされないで通常の学級に放り込まれるような「ダンピング」とは無縁である。

また、通常学級のクラス規模も日本と比べて小さいこと、公的教育において教材や給食、通学にかかる費用すべてについて生徒や保護者の負担が一切ないことなど、子どもたちの健やかな成長、豊かな発達を保障しようとするスウェーデンの教育の一端にふれる視察であった。